

# 目指すべき市場経済システムに関する専門調査会

---

## 中間報告（ポイント）

---

平成25年6月6日  
小林議員提出資料

# 目指すべき市場経済システムに関する専門調査会について

## 委員名簿

(会 長)	小林 喜光	株式会社三菱ケミカルホールディングス 代表取締役社長 経済財政諮問会議議員
(会長代理)	原 丈人	アライアンス・フォーラム財団代表理事
(顧問)	伊藤 元重	東京大学大学院経済学研究科教授 経済財政諮問会議議員
	伊丹 敬之	東京理科大学専門職大学院イノベーション 研究科長
	神 永 晋	住友精密工業株式会社相談役
	程 近 智	アクセンチュア株式会社代表取締役社長

## 開催実績

- 第1回:4月23日  
・各委員からの問題意識等の提示 等
- 第2回:5月13日  
・前回の議論の整理  
・組織・契約論から見たコーポレートガバナンスについて  
・市場経済システムの国際的潮流  
・経済同友会 第17回企業白書などについて
- 第3回:5月17日  
・企業関係者からのヒアリング
- 第4回:5月22日  
・議論の中間的整理に向けて

## はじめに

- 自由な競争と開かれた経済は不可欠であり、それを前提として、日本及び世界の置かれた状況を踏まえつつ、
  - ①経済の成長力と社会の厚生をともに高めるため、
  - ②市場経済システムに存在する諸課題を克服することのできる「目指すべき市場経済システム」の姿を検討。

# 市場経済システムの役割と機能

## 市場経済システムの役割

- 生産・支出・所得の循環構造を支え、**競争原理**を通じて**効率的に資源配分**。
- **企業のイノベーション**を通じて、**経済社会が変革していくダイナミズム**を發揮。
- その過程で、**市場参加者への規律、インセンティブ**を付与。
- こうした市場経済システムが本来持つ機能が十全に發揮されれば、**社会で必要とされる企業と、競争力を持ち長期に存続する企業が一致**。

## 市場経済システムに内在する問題

- 市場経済システムに内在する要因から様々な問題が発生し、**市場経済の本来の機能が發揮されず、経済社会の持続可能性を阻害**。
  - 将来有望だがリスクの高い中長期投資への資金供給不足。
  - 外部性のある企業の人材育成の不足。
  - イノベーションの過程などでの「勝者総取り」など成果配分の問題。
  - 分配の過度な偏りによる勤労意欲の低下。
  - 環境への過度の負担。
- **短期的利益のみを追求する「マネー・ゲーム」**に大きく偏ると**中長期投資や人材育成が不十分**。**過度の金融変動**が金融システム機能を毀損し、**経済に多大な悪影響**。

## 世界各国で見直しが模索される市場経済システム

- 中長期的な視点での投資を実現するための新たなシステムの模索。
- 金融制度に係る国際的な改革の動き。
- 個別の企業におけるサステナビリティ、中長期的な利益、多様なステークホルダーへの貢献を重視する動きの拡がり。

持続可能な経済社会の基盤となる市場経済システム

⇒ 未来への投資を促進することが必要

## 市場経済システムを担う要素

### 1. 多様なステークホルダーが結ばれる企業

- 企業は、株主のみならず、経営者、従業員、顧客、取引先、地域社会といった多様なステークホルダーの結節点となり、多様なステークホルダーにその価値を還元。「三方よし」の考え方が適合。

### 2. 未来への投資としての人材育成

- 持続的成長を実現する未来への最大の投資は人材育成。
- 個々の労働者がスキル・能力向上を図ると同時に、勤務先が変わっても多様な価値創造を担い続けられるよう、十分な人材育成が行われる労働環境を構築。
- 日本では、長期雇用の下で、従業員が現場からの発想を持ち寄り、価値を創造。

### 3. 未来への投資を担う資金

- 未来への投資の実現には中長期的な資金の供給が必要。そのために、ステークホルダー間のよりよいコミュニケーションが重要。
- 大規模な金融危機を防ぐための金融制度改革が必要。

## 目指すべき姿

日本の経験は、普遍性のある市場経済システムを目指す上での有用な手がかり。

過去の姿に安易に回帰することなく、国際的な取組の動向も踏まえながら、これまでの経験で得たものを活用しつつも再構築し、対外的に発信。

我々が目指すのは、実体を伴わない短期利益のみを志向する「マネー・ゲーム」に偏りすぎることなく、「実体経済(Real Economy)主導」の持続可能な経済社会。

# 目指すべき市場経済システム 「実体経済 (Real Economy) 主導」 本来の機能を十全に発揮

国民に共有  
対外的に発信

- 中長期投資、リスクテイクが活発に行われ、イノベーションを通じて革新的技術と新たな基幹産業を創出。
- 企業の多様なステークホルダーへの価値還元。
- 価値創造を担う人材が育つ。
- 異なる文化・伝統を持つ国・地域を受容、途上国を含む世界経済の発展に貢献。
- 自然や環境との共生。

## 過去の姿への 安易な回帰

- 多様なステークホルダーが関わることで何も決められない。
- 投資の将来性を十分に吟味しない中長期の資金提供。
- 長期的雇用慣行の下で働き方が硬直的になる。

## 日本の経験で得たものを再構築

- 企業と投資家のよりよいコミュニケーションの構築。
- 勤務先が変わっても十分な人材育成が行われる労働環境。
- 大規模な金融危機を防ぐための金融制度改革。

実体を伴わない  
短期利益のみを求め  
るマネー・ゲームに偏  
りすぎると...

- 中長期投資が不十分。
- 成果配分の偏り。

## 従来の日本の仕組み

- メインバンク制等による中長期の資金供給。
- 企業が多様なステークホルダーの結節点 「三方よし」。
- 長期雇用による人材育成。